

高等学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

芸術（音楽）

東京都教職員研修センター

目 次

研究の概要

| | |
|-------------|---|
| 1 研究主題設定の理由 | 2 |
| 2 研究の仮説 | 3 |
| 3 研究の内容と方法 | 3 |
| 4 研究の構想 | 4 |

研究の内容

実践事例

事例1

| | |
|------------------------|---|
| [音楽、器楽]一人一人が主体的に活動する演奏 | 5 |
|------------------------|---|

事例2

| | |
|----------------------|---|
| [音楽、器楽]声や楽器で自分を表現しよう | 9 |
|----------------------|---|

事例3

| | |
|--------------------------------------|----|
| [音楽、創作]「Myメロディー」を創作して「Our カノン」を演奏しよう | 14 |
|--------------------------------------|----|

事例4

| | |
|-----------------------------|----|
| [音楽、表現と鑑賞]パッヘルベル「カノン」について学ぶ | 19 |
|-----------------------------|----|

| | |
|----------|----|
| 研究の成果と課題 | 24 |
|----------|----|

研究の概要

研究主題

生涯にわたり音楽を愛好するための基礎的・基本的な内容の定着を図る授業を目指して
～生徒一人一人が主体的に音楽活動に取り組むための個に応じた指導の工夫～

1 研究主題設定の理由

(1)音楽の授業に求められるもの

今回の学習指導要領に求められている[生きる力]と[確かな学力]に関して、「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」(答申 平成 15 年 10 月中央教育審議会)において、知識や技能を剥落させることなく自分に身に付いたものとする、それを実生活で生きて働く力とする、思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲などを高める等の観点から、知識や技能と生活の結び付きや、知識や技能と表現力の相互の関連付け、深化・統合化を図ると述べられている。

これらの学習指導要領、中央審議会答申を踏まえ高等学校芸術科においては、生徒一人一人がそれぞれの興味・関心や個性を生かして、芸術と幅広く、かつ、主体的にかかわっていくことを重視している。平成 16 年度教育研究員音楽部会では、21 世紀を担う生徒たちが、高等学校の音楽の授業を通して、幅広い音楽観や自他の音楽を尊重する態度を身に付けるとともに、世界の人々とより直接的にコミュニケーションを図る能力を高め、さらには自国の音楽文化のみならず、多様な文化を受容する能力と態度を涵養することが重要だと考える。そのためには、生徒一人一人が生涯にわたって音楽を愛好するための心情をはぐくみ、個性を生かした表現を追求できるように、個に応じた指導や、教師の創意工夫により学習指導要領に記されている、基礎的・基本的な内容の定着を図ることが必要と考える。

(2)高校生の実態

高校入学時のアンケートなどによると、歌うことを始めとして音楽を愛好する者が多い。オーディオ機器やインターネットを利用して、多様な音楽に触れ、音楽の素晴らしさ、美しさを楽しんでいる。しかし、多くの音楽に触れている半面、音楽を実際に表現する体験が少ない生徒も多いと思われる。授業での生徒の実態は、歌うことなど演奏することに興味はあるが、音楽表現の深まりや個性が感じられない等の傾向がある。また、高等学校までの音楽経験の差が大きくなっている実態がある。

(3)音楽科授業改善の方法

上記の状況を踏まえ、また限られた時間の中で、いかに基礎的・基本的な内容の定着を図り、生徒が主体的に音楽活動に取り組む授業へと改善をしていくかを考え、以下の3点を研究のねらいと考える。

生徒の思いや願いを授業の中でどのように指導者が引き出し、主体的に音楽に取り組ませるか。
基礎的・基本的な内容を確かなものにするため、いかに支援(しかけ、ゆさぶり)をするか。
指導者の支援による生徒の変化をどのように評価(みとり)すると同時に、生徒自身にも変化を実感として感じ取らせるか。

2 研究の仮説

研究主題から目指す生徒像を「音楽の美しさを感じ取り、主体的に自分らしい表現の工夫をすることができる生徒」とした。これに近付くために、個に応じた学習のねらいを明確にし、教材選定や指導形態の工夫をすることが必要である。まず、生徒に興味・関心をもたせるところからスタートし、指導者の個々の生徒への「観察」、「支援」の繰り返しによって、学びの質的な高まりが見られ、受け身でなく、自ら表現していく生徒に変えていくことができるのではないかと考え、以下の仮説を立てた。

個に応じた学習のねらいを明確にし、興味・関心を高めていくことができる指導法を工夫することによって、主体的な音楽活動に取り組む生徒が育つであろう。

3 研究の内容と方法

(1)生徒一人一人が主体的に表現を工夫するための教材の工夫

- ・生徒の意欲を引き出す教材
- ・生徒が興味をもつような逸話や視聴覚教材の利用
- ・個に応じて、指導者が編曲したり生徒の多様な要望に応える楽曲を提供したりする配慮
- ・中学校との発展性、持続性を重視した教材
- ・生徒が考え、工夫する場の設定

(2)主体的に表現を工夫するための指導法の工夫

生徒の意欲が見られたときにどう持続させられるか、生徒の変化を見逃さず、やる気につながっていくためにはどうするか、表面的に判断できないことを教師がいかに関心のある生徒とかわりながら感じ取らせるかがカギとなると考えた。

また、次のような定義付けをし、共通理解をした。

- 「しかけ」 基礎的・基本的な内容を定着させるための支援
- 「ゆさぶり」生徒の興味・関心を高めるための意欲付け
- 「みとり」 評価

この3つのキーワードをもとに、研究を進めていくこととした。

(3)自己評価、相互評価の工夫

生徒にとって、自己評価及び相互評価は自分を客観的に見つめ直すために必要であると考えた。主体的に表現していくためのヒントが得られるように、題材に入る前の生徒の実態を把握する診断的評価や生徒一人一人に着目した形成的評価など生徒一人一人の個人カルテを作成した。また、練習段階、発表段階において、生徒が自己評価しやすいように、4つの観点に沿った項目を工夫した。

また、発表などを行う際にはそれを録画・録音するなどして生徒に学習活動を振り返らせることで、より一層の意欲を引き出せるのではないかと考えた。その他にも、振り返りのシートを活用するなど、多面的に生徒を評価する資料を収集し、評価の信頼性を高めることを目指した。

4 研究の構想

(芸術科の目標)

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

(音楽の目標)

音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

(音楽の目標)

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。

【目指す生徒の像】

音楽の美しさを感じ取り、主体的に表現の工夫をすることができる生徒

(音楽科における課題)

- ・ 技術の練習に偏ることが少なくない。
- ・ 演奏に音楽表現の深まりや、個性が感じられない。
- ・ 個人差が大きく、個に応じた指導が難しい。

(社会的背景)

- ・ 精神的ストレスの増大
- ・ 情報化社会の中で価値観の多様化
- ・ 感性の育成や豊かな心の育成が求められている。

【研究主題】

生涯にわたり音楽を愛好するための基礎的・基本的な内容の定着を図る授業を目指して
～生徒一人一人が主体的に音楽活動に取り組むための個に応じた指導の工夫～

(研究の仮説)

個に応じた学習のねらいを明確にし、興味・関心を高めていくことができる指導法を工夫することによって、主体的な音楽活動に取り組む生徒が育つであろう。

【教材の工夫】

- ・ 生徒の意欲を引き出す内容
(逸話や視聴覚教材等の工夫)
- ・ 楽曲、楽譜の選択と工夫
(個に応じた編曲楽譜の作成)
(生徒にとって身近な音楽の中から優れたものの選択)
(中学校との発展性、持続性を重視した教材)
(生徒の視野を広げる諸民族の音楽)

【指導法の工夫】

- ・ 目標の明確化
- ・ 「しかけ」「ゆさぶり」「みとり」を意図的・計画的に入れ込む指導の工夫
- ・ 「記録シート」「振り返りシート」「個人カルテ」を活用する個に応じた指導の工夫
- ・ 授業環境の整備(場の工夫)

【評価の工夫】

- ・ 自己評価、相互評価の工夫
- ・ 目標に準拠した評価と生徒への十分な説明
- ・ ポートフォリオ評価
- ・ 題材に入る前の生徒の実態を把握する診断的評価
- ・ 生徒一人一人に着目した形成的評価
- ・ 「みとり」を生徒指導に生かしていく工夫

研究の内容

実践事例

事例1〔音楽、器楽〕

(1) 題材名

「生徒一人一人が主体的に表現する演奏」

(2) 題材の目標

音楽選択者全員が多様な興味・関心、能力、適性に応じて楽器をそれぞれ選択し演奏する中で、創造的な表現や奏法の工夫をする能力を身に付ける。

(3) 題材設定の理由

生涯にわたって音楽を愛好するために、楽器演奏を通じて「表現する喜び」を経験させたい。また、全員、同じ楽器同士で練習する中、お互いの協力や教え合いで、ひとつの楽曲を表現する喜びを感じ取らせたい。

(4) 教材について

「やさしさに包まれたなら」 作詞・作曲/荒井由美 編曲/川辺 真

歌唱曲として第3学年最初に用いた曲である。映画の中で用いられている曲であるので、生徒が興味・関心をもちやすい曲である。第3学年最初の合奏であるのでリズム、譜読みがそれほど難しくなく、各パートに分かれて全部ではなくても参加できる曲である。

(5) 学習内容

「グロッケン・シロフォン」「キーボード」「ピアノ」「ギター」「電子ドラム」から興味・関心に応じて楽器を選ぶ。ペアでそれぞれパート練習をして、合奏までに自分らしい表現を含めて演奏できるようにする。

(6) 題材の評価規準

ア ペアでの練習や部分合奏において、理解の不十分なところにも、課題を解決しようと意欲的に取り組み、自分自身の演奏を楽しんでいる。 (音楽への関心・意欲・態度)

イ 楽譜に書かれている強弱記号、表情記号を理解し、曲の構成及び曲想を生かした創造的な表現を工夫している。 (芸術的な感受や表現の工夫)

ウ 毎回の練習の中で表現方法や演奏技術を習得し、ペアまたは合奏と自分の演奏を合わせている。 (創造的な表現の技能)

エ ペアでの演奏や合奏で他の人の演奏を聴き、楽曲の表現方法にふさわしい適切なアドバイスをしている。 (鑑賞の能力)

(7) 指導計画(全6時間)

| 時 | 主な学習活動 | 学習活動における具体的評価規準 | 評価方法 |
|---|------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------|
| 1 | 原曲を鑑賞する。合奏パート、ペアを決定し楽器を選択する。 | ・学習に、意欲的に取り組もうとしている。 ・楽器編成等を決める過程において積極的に発言している。 | 観察 記録シート |

| | 主な学習活動 | 学習活動における具体的評価規準 | 評価方法 |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 2 3 4 | 全曲を前奏 A ~ C に区切りペアで楽器練習を行い、演奏技術の習得、楽曲への理解を深める。 毎時間小節を区切って合奏を行い、全体の中で、自分のパートの役割を確認する。 | ・前奏 A ~ C の部分までを区切って練習・合奏に意欲的に取り組んでいる。難しい箇所を理解しようと努力している。 ・リズム・フレーズを把握し、表現方法を感じ取り工夫している。 | 観察 記録シート |
| 5 | ペアでの合奏練習・合奏を通して、音のバランスを確認し、表現方法についての意見交換をする。 | ・全体を通じた合奏において、他のパートとのかかわりの美しさを感じ取って演奏している。 ・全体の合奏において、他のパートへの意見を積極的に述べる事ができる。 | 観察 記録シート 楽譜に書かれている記号の確認状況 |
| 6 | 最終練習の後、合奏を発表する。 合奏を終わってのまとめをする。次回の合奏への意欲を高める。 | ・全体を通じた合奏の中で、自分の表現したいことを意見として述べている。 ・他のパートの美しさを感じ取りながら、自分のパートの音色・音量を工夫している。 ・演奏を終わって、自分が変容した部分を感じ取っている。 | 観察 記録シート |

(8) 本時の展開 (第 6 時)

ア 本時のねらい

合奏の最後の時間であるので、これまで練習してきたことを確認し、全体合奏の中で個性を生かした創造的な表現を目指す。また、今回の合奏で感じたことを振り返らせ、次回への意欲へとつなげる。

イ 展開案

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----|
| < 導入 > 前回の振り返り用紙 (合奏) の記録から最後の合奏で気を付ける点を全体で確認する。また個人的に心配な箇所を確認しておく。 | 前回の振り返りシートから、今回の演奏に生かせそうな感想をあらかじめ抜き出しておき発表する。 個人的に気を付けて欲しいことは、記録用紙に記入しておく。 | |
| < 展開 > 発表前の最後のペア練習、部分合奏を行い、お互いの意見を述べ合う。 | 本時の課題を的確につかめるようにする。 十分に演奏できない箇所を確認し練習させる。 | |

| 学習活動 | 指導上の留意点 評価 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>合奏を発表する。</p> | <p>最後までより良い表現方法や演奏技術を求めて練習している。</p> <div data-bbox="220 349 1031 840" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「おおむね満足」からさらに質的な高まりが見られる生徒の姿 美しい音色、創造的な表現を追求している。ペアでの練習において、最後までお互い教え合い、より良い演奏を心がけている。</p> <p>「おおむね満足」と評価した生徒の学習状況 演奏するパートに自分なりの表現を追求している。</p> <p>「努力を要すると判断される」生徒への手だて 強弱記号や表情記号を確認させ、個性を生かした表現ができるようアドバイスをする。</p> </div> <p>今まで演奏したことが、生かせるように雰囲気作りをする。</p> <p>全体の演奏を聴きながら自分の演奏を合わせ、表現を工夫している。</p> <div data-bbox="437 1048 1305 1514" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「おおむね満足」からさらに質的な高まりが見られる生徒の姿 全体の中で自分の音を聴いている。全体合奏において表現方法、縦の線が揃わない箇所、ずれてしまう箇所など演奏について自分の意見を述べている。</p> <p>「おおむね満足」評価した生徒の学習状況 全員で合奏することを楽しんでいる。全体の音を聴きながら、創造的な表現を心がけている。</p> <p>「努力を要すると判断される」生徒への手だて 周りの音を聴きながら、自分自身の演奏を楽しむようにアドバイスする。</p> </div> |
| <p><まとめ> 今回の合奏を通して一人一人音楽の「演奏技術」「表現能力」「周りの演奏の美しさを感じ取りながら、個性を生かせる能力」がどのように変容したかを振り返りシートにまとめ、次回への意欲付けとする。</p> | <p>今までの演奏を振り返る中で生徒が自分の中で成長した部分を感じ取り、次回からの演奏の意欲付けになるように助言する。</p> <p>合奏の練習で大切と感じることを、自分の考えでまとめられるよう助言する。</p> |

事例2〔音楽、器楽〕

(1) 題材名 「声や楽器で自分を表現しよう」

(2) 題材の目標

いろいろな楽器を体験し、それぞれの楽器にふさわしい奏法を習得する。

曲のイメージを膨らませ、自分に合った表現方法を工夫する。

(3) 題材設定の理由

音楽経験は生徒一人一人異なる。歌唱を得意とするもの、楽器演奏を得意とするもの、逆に、興味はあるが、実技の体験は少ないものなど、様々である。しかし、そういったこれまでの音楽経験の有無にかかわらず、いろいろなジャンルの音楽に触れさせ、演奏を通じて表現することの素晴らしさを知り、その成果を発表することで、より一層の達成感を味わわせることができると考えた。

(4) 教材について

- ・各自の選曲した楽曲（鑑賞）
- ・各自の選曲に基付き、指導者の助言により選択した曲（演奏）

(5) 学習内容

- ・他の生徒の提供した楽曲を鑑賞し、お互いの感想や気が付いた点などの発表
- ・個人またはグループによる歌唱・楽器の演奏とその発表

(6) 題材の評価規準

- ア 個人・グループでの練習への取組みと、自らの目標を明らかにしようと意欲的に取り組んでいる。 (音楽への関心・意欲・態度)
- イ 発表に向けて、自分らしい表現を工夫している。 (芸術的な感受や表現の工夫)
- ウ 楽譜を理解し、楽器の奏法を習得している。 (創造的な表現の技能)
- エ 楽曲のもつ雰囲気と音楽の諸要素とのかかわりを理解して聴いている。(鑑賞の能力)

(7) 指導計画(全14時間)

| 時 | 主な学習活動 | 学習活動における具体的評価規準 | 評価方法 |
|---|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 1 | 授業全体の目標を理解する。 楽器の取り扱いについて理解する。 興味をもった楽器の音を出してみる。 | 目標を理解しようとしている。 | 観察 |
| 2 | 個人またはグループで楽器・曲を決める。 個人またはグループで練習する。 | 発表までの限られた時間の中で、自分ができる楽器、曲を決めている。 楽器の特徴をとらえ、楽譜に書かれた内容を理解しようとしている。 | 観察 観察 記録シート |
| 3 | お互いの提供する楽曲の鑑賞をする。 | 様々な表現者、表現方法について、的確にまとめている。 | 記録シート |
| 4 | 個人またはグループで練習する。 | 苦手な部分を見付け、各自の目標を明らかにしている。 | 観察 記録シート |
| 5 | 3時、4時の内容について積み重ねていく。 | 前回の反省や気が付いた点を参考にしながら、表現を工夫しようと努めている。 | 観察 記録シート |

| | | | |
|---------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------------|
| ~ 12 | | 毎時間の課題を整理し、指導者のアドバイスを参考にしながら課題解決に努めている。 (実際の記録シート(9) - イを参照) | |
| 13 | 発表前の最終練習をする。 発表会に向けた目標を明らかにする。 | 発表に向けて真剣に取り組もうとしている。 | 観察 記録シート |
| 14 | 各自・各グループで発表をする。 各グループ等の演奏を鑑賞をする。 | 発表のマナーを心がけている 友だちの演奏の美しさやよさを味わって聴いている。 | 観察 記録シート |

(8) 本時の展開 (第14時)

ア 本時のねらい

本時までの成果を発表し、今後の楽曲選びや、楽器の選択に生かしていく。

他の生徒の発表を聴くことにより、表現方法の工夫を互いに感じ取り、適切な自己評価をする。

イ 展開案

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| <導入> 各自が前時に記入した目標を再確認する。 発表及び鑑賞のマナーを理解する。 | これまでの学習のまとめとして奏法や音色に注意させる。 発表の際のマナーについて説明する。 鑑賞の際のマナーについて説明する。 各自の目標を確認しているか。 | |
| <展開> 発表及び鑑賞を行う。 鑑賞用の記録シートの記入する。 | 友だちの表現を聴き、それぞれのよさを聴き取るとともに、自分の表現と比較しながら演奏を味わわせるようにする。 発表場所の雰囲気作りを工夫する。 演奏会全体がスムーズに進行するよう、配慮する。 記録シートの内容に、お互いの演奏のよい点をとらえようとする姿勢が見られるか。 演奏の際に、真摯な姿勢で取り組んでいるか。 表現の難しい生徒への手だて・・・それぞれの演奏の前に一言ずつ助言し、鑑賞のポイントを明確にする。 | |
| <まとめ> 発表を終えて自己評価する 次回の目標を考える | 全体の演奏についてコメントし、今後の活動の目標を考えるようにする。 個人的な指導、助言が十分とれない場合、次回の時間に本人に直接記録シートへの記入等で伝える。また、各自の心情面をとらえ、記述内容に配慮する。 客観的に自分の演奏を評価できたか。 | |

(9) 評価事例・個に応じた指導事例等

ア 本講座は選択科目で、全学年が受講している。課題も様々で、題材設定の理由でも述べたように、楽器演奏の経験があるものから、読譜力が十分でない者など幅広くおり、下の表はそれぞれの様子を書き留め、次への課題に生かした資料である。

| 生徒 | 選択した楽器 | 観察の様子 |
|----|----------|------------------------------------------|
| A | ピアノ | ある程度楽譜は読めるが、両手で弾くのはほとんど初めてに近い。 |
| B | ピアノ | 目標を定めて取り組むことが難しい。目標を明確にする必要がある。 |
| C | ギター | ほとんど独学でギターを弾いている。今回の曲はリズムが難しく、かなり苦労している。 |
| D | ミュージックベル | 読譜力が弱い。楽譜を工夫する必要がある。 |
| E | ミュージックベル | 取りかかるのに時間がかかるが、やり始めると集中して練習する。 |
| F | ミュージックベル | 自分の目標がはっきり定まらない。目標を明確にする必要がある。 |
| G | ピアノ | 長年の目標であった曲に挑戦している。 |
| H | ミュージックベル | 自分の目標がはっきり定まらない。目標を明確にする必要がある。 |
| I | ミュージックベル | グループの中心的存在。読譜力がある。 |
| J | ミュージックベル | 読譜力は不十分だが、意欲がある。 |
| K | ヴァイオリン | 初心者ながらしっかりした音が出せる。音程は不安定である。 |
| L | ピアノ | 自分の表現方法を模索している。 |
| M | ピアノ | 自分の目標がはっきり定まらない。目標を明確にする必要がある。 |
| N | ギター | 初心者だが、毎時間練習に打ち込んでいる。 |
| O | ギター | 初心者で、授業の他にも家で練習を重ねている。 |

イ 4月の第1回目の授業から毎回記入させているもので、毎時間の活動記録と、次回の授業に向けた目標を明らかにさせるものである。また、確認欄にはその日の授業の様子を見ながら、指導者が気付いたことやアドバイス、生徒の感想及び目標を読んだの感想を記入し、次の時間の始めに返却し、毎時間の目標を各自に確認させている。確認欄のコメントを楽しみにしている生徒もあり、コミュニケーションの一つにもなっている。また、声に出して気持ちを伝えることが苦手な生徒にとっては気持ちを伝える手段でもあり、意欲や意志を秘めている場合に、シートに書かれた感想を読むことによって指導者が改めて生徒の気持ちを理解することができる。

記録シート

氏名

| 日付 | 本日の活動内容 | 感想および次回の目標 | 確認欄 |
|------|----------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 6/16 | ギター演奏の発表 | 思ったより全然よく出来た 今度こそ本音で弾くことにしよう | 練習は本番では余裕で 弾けるようになるまで 全然、遠くまで |
| 6/23 | ギターで曲を弾く | CDに聞いたら結構歌いながら弾ける 自分もそこそこ歌えてCDに聞かなくて 出来るのが嬉しい。 | 右手のストロークは おぼろげにしよう 練習しよう。 |
| 6/30 | Let it beも ギターで弾く | コードの変化がクワイターたり バレーコードが音で弾けるのでその コードにバレーコードを足して弾ける | F-G-Cの連打は バレーコードで弾ける 練習しよう。 |

ウ 発表会に向けて各自に目標を書かせているシートで、同時に発表会用のプログラムを作るための資料にもしている。生徒の意識を発表会に向けさせ、気持ちを高めていくために活用している。数人の生徒のシートに書かれた内容を次のような表にまとめてみた。

| 生徒 | 発表会の抱負 | 自己評価 | 発表会を終えて |
|----------|-------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| A ピアノ | 自分の練習してきた成果を発揮できるようにしたい。 | 3 | すごく、緊張して、何度も間違えてしまった。練習ではできて、本番でできないところもあった。次回は、間違えた部分をできるように、また、平常心で演奏できるようにしたい。 |
| B ギター | 緊張しないように。技術が足りない部分は気持ちで補いたい。 | 2 | 緊張してたくさん間違えてしまったけれど、楽しく演奏することができた。歌の部分はもっと腹式呼吸を意識してみたい。 |
| C ギター | コードチェンジをスムーズにし、途中で止まらないようにする。 | 2 | 緊張のあまり、うまくコードが押さえられなかった。緊張感をうまく、演奏に生かすことができたと思う。完成度をもっともっと高めていきたい。 |

発表会記録シート（実際のもの）

| | | | | |
|---------|------------------------|----------------------------------------------|------------------------|-----------------------------------|
| 曲目 | 流星群 | 曲目 | トクイナヒ | |
| 演奏形態 | ピアノ独奏 | 演奏形態 | ギター独奏 | |
| パート | | パート | | |
| 発表会への抱負 | 緊張するな、最後までがんばる。 | 発表会への抱負 | 緊張しないように、最後までがんばる。 | |
| 発表会を終えて | 自己評価 | 5 4 3 2 1 (0を付ける) | 自己評価 | 5 4 3 2 1 (0を付ける) |
| | 反省・感想 | 自分が弾くスピード、楽譜が読めなかった。緊張した。音が聴こえなかった。最後までがんばる。 | 反省・感想 | 緊張した。最後までがんばる。音が聴こえなかった。最後までがんばる。 |
| | 次回の抱負 | 緊張しないように、最後までがんばる。 | 次回の抱負 | 緊張しないように、最後までがんばる。 |
| 担当者より | 発表会を終えて、緊張した。最後までがんばる。 | 担当者より | 発表会を終えて、緊張した。最後までがんばる。 | |

エ 発表会の始めに発表会プログラムを配布し、生徒は聴きながら右端の空欄に感想を記入する。(曲目欄が手書きの箇所はこのシートを配布した際に授業を欠席し、発表する曲目が把握できなかったもの。また、感想欄に斜線の入っている部分は当日の発表を欠席したものの。)演奏後、他の生徒の発表も聴き、感想を記入する作業を一度に行うので、かなりの集中力が必要になるかと思われるが、生徒はおおむねよく記入している。

発表会プログラム（一部抜粋）

氏名

| | | |
|-------|---------------------|-------------------------------------------------------------|
| ピアノ独奏 | 真上げてごらん 夜の星を | |
| ピアノ独奏 | Yesterday once more | サビの所とかが、11あっていて とっもキレイでした。元の曲も いいけど、こういうのもいいなーと思いました。 |
| ギター独奏 | ビルとプリン | 難しそうなのにすごいなーと思いました。 最後の方の盛り上がったところが、 本当に上手かったです。 |

(10) 考察

生徒が持っている興味・関心を最大限に引き出すため、楽器の選択、楽曲の選択はある程度自由に行わせた。ただし、自分の技能を把握し、次の段階に発展できるような教材を提供するために、全くの自由というわけではなく、指導者が個に応じて適切にアドバイスをした。生徒の好みは多様なので、指導者自身も今の音楽の流行を受け止めながら、ジャンルにとらわれない広い視野をもつ必要があった。しかし、生徒は意外とオーソドックスなメロディーにも興味を持っていたので、新しいものだけではなく、古いもののよさを教えていくのも、この授業の大きな意義の一つであった。

生徒一人一人が自分の目標を明らかにし、自覚することは、研究主題でもある「主体的な活動」を実現するための大切な要素である。指導者一人に対し生徒は数名いるため、個人レッスンのようにつきっきりで授業することは難しい。そこで、生徒が積極的に練習に取り組むように、「その授業の時間内での目標」、「ある程度回数を重ねた目標」、「発表会という大きな目標」の発展的な目標を生徒に示し授業を進めた。それには記録シートの活用が有効な手段であったと感じている。今後シート自体改善の余地はあるが、生徒自身が自分の練習の内容を振り返りながら、技術的、表現的課題を整理し、それを解決するプロセスを明確にできたと思う。また自分以外の生徒の練習している姿を身近に感じさせることで、技術を磨いたり、表現効果を工夫しようとしたりする気持ちが高まり、意欲を高めることができた。

生徒は発表会前に「とにかく間違えないように演奏したい」ということが第一になって、実際に発表が始まって緊張のあまりミスをし、演奏が止まってしまい、自分の演奏に満足できなかったものもいた。しかし、指導者の目から見ると、音の余韻を大切にしたり、曲の「間」を大事にするもの、発表の直前まで曲の終わり方にこだわるグループなど、多くのこだわりを発見することができた。さらに、聴いていた生徒たちの感想を読むと、よいところを探しながら実にたくさんの感想を書いており、刺激を受けていることが分かった。

授業は次の段階に進み、発表会を一つの契機として、さらに自分にあった楽器、楽曲を選択するもの、個人の演奏ではなく、アンサンブルに挑戦するもの、バラエティーに富んできた。生徒のもつ可能性を十二分に引き出し、演奏する喜びや目標を達成する感動を味わわせ、卒業した後も、この体験を生かし、音楽とかがわかることにつながると考えた。



(アンサンブルに取り組む生徒)



(個人演奏の練習の様子)

事例3 [音楽、創作]

(1) 題材名 My メロディー を創作して Our カノン を演奏しよう

(2) 題材の目標

- ア 決められた和声進行に合う、音楽としてまとまりのある旋律を創作する。
- イ 互いに聴き合いながら演奏する楽しみ・喜びを感じながら、アンサンブルをする。

(3) 題材設定の理由

本題材では決められた和声進行に合った旋律創作を行い、その旋律を重ね合わせてアンサンブルをする。自分で工夫を重ねて創作した My メロディー ならば、愛着をもち、意欲的に演奏できるであろう。そして同じ和声進行に合わせて創られた旋律を重ね合わせると、美しい音の重なりを得ることができる。

具体的な方法として、生徒一人一人が決められた和声進行に合う旋律 My メロディー を創作する。次にグループに分かれ、My メロディー を重ねて3声の楽曲(バスも含めると4声) Our カノン を創り、練習し発表する。これら一連の活動によってハーモニーの心地よさを味わうとともに、互いに聴き合いながら一つの音楽を創り上げる楽しみ・喜びを味わってほしい。そこに音楽の醍醐味があり、この体験の積み重ねが生涯を通じての音楽体験の継続学習につながっていくと思われる。しかもその曲が自分の創った My メロディー であるので、意欲的に演奏に取り組むことができる。以上の理由により本題材を設定した。

(4) 教材について

ア 「カノン」 ヨハン・パッヘルベル(1653~1706 ドイツ)作曲

だれもが一度は聴いたことがある、バロック時代の楽曲で、

(授業ではC - G - Am - Em - F - C - F - Gのコードを用いた。)の和声進行が始めから終わりまで繰り返され、その上に美しく変化に富む旋律が次々と紡ぎ出されていく。近年、この和声進行(循環コード)を用いたポップスが多く作られており、生徒にはなじみやすいと思われる。本題材では「カノン」を鑑賞するとともに、この楽曲の「循環コード」を用いて旋律創作を行う。

イ 「カノン」の循環コードに合う旋律創作

本題材では「カノン」の循環コードに合う、2分音符・4分音符・8分音符のみから成り、4小節の長さをもつ、3種類の旋律を創作する。旋律を音楽としてまとまりのあるものにするための最低限のルールとして以下を設定した。(譜例1)

2分音符メロディー 創作のルール

(a)和音の構成音のみ使用。(b)順次進行か同音連続。

4分音符メロディー 創作のルール

(a)和音の構成音のみ使用。(b)なるべく近い音か同音連続。

8分音符メロディー 創作のルール

(a) 2分音符、4分音符メロディー と重なる1, 3拍目は和音の構成音を使用し、1つの和音に対する4つの8分音符の内、2つ以上は和音の構成音を用いる。(b)非和声音を使用してよいが順次進行で到着する。

譜例 1

①和音の構成音のみ使用
②順次進行
同音連続

①和音の構成音のみ使用
②順次進行
同音連続

①和音の構成音のみ使用

① 1.3拍目(OFF)は構成音, 4音のうち2音以上構成音を使用 ② 非和音(※)は順次進行により到着

(5) 学習内容

- ア コードのしくみやコードネームを知り、鍵盤楽器で演奏する。
- イ 「カノン」の循環コードに合う旋律を創作する。
- ウ 創作した旋律をリコーダーやキーボードを用いてグループでアンサンブルをする。

(6) 題材の評価規準

- ア 和音や旋律創作に関心をもち、意欲的に創作活動に取り組んでいる。
(音楽への関心・意欲・態度)
- イ 決まった和声進行に合う、音楽としてまとまりのある旋律創作を工夫して行っている。
(芸術的な感受や表現の工夫)
- ウ 創作した旋律のよさを生かして器楽表現をする技能を身に付けている。
(創造的な表現の技能)
- エ 友人の旋律のよさ、旋律を重ね合わせたときに生まれるハーモニーの美しさを感じ、聴き取っている。
(鑑賞の能力)

(7) 指導計画 (全8時間)

本題材に入る前の予備的な学習活動

一般に高校生になると音楽的な経験・能力にかなりの違いが見られる。したがって本題材に入る前に創作がスムーズに進められるよう、以下の内容を2学期当初より継続的にやってきた。(譜例2)

ア リズム面

指導者の模倣と創作・・・指導者の4分音符8拍分のリズムを模倣する。その後、前半4拍分は模倣、後半4拍分を創作して、指導者の後に続ける。

リズムフレーズづくり・・・4/4拍子、4小節のa b a cの形式でリズムフレーズを創作する。2分、4分、8分音符のみを使う。aは続く感じ、cは終わる感じになるようにする。

イ 旋律面

指導者の模倣と創作・・・指導者がリコーダーで演奏する4分音符8拍分の旋律を

リコーダーで模倣する。その後、前半4拍分は模倣、後半4拍分を創作して、指導者の後に続ける。始めはD、E、F、G、A音の5音のみに限定し、その後ドリア旋法(D音～D音)で行う。

順次進行の旋律づくり・・・4分音符7つで最後がC音で終わる旋律を創作する。音の動かし方は順次進行・同音連続のみとする。

譜例 2

< 指導計画 >

| 時 | 主な学習活動 | 学習における具体的評価規準 | 評価方法 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 第1次 | ねらい：コードやコードネームに慣れる。 | | |
| 1 | コードのしくみやコードネームを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コードのしくみやコードネームに関心をもち、意欲的に表現活動をしている。 ・楽曲の構造や和声の移り変わりを把握する。 | 観察 演奏聴取 プリント |
| 2 | 「少年時代」のバスを旋律(歌唱)と合わせて鍵盤楽器で演奏する。 「ダイアナ」の和音(コード)を旋律(リコーダー)と合わせて鍵盤楽器で演奏する。 「カノン」の循環コードの美しさを感じ取り、鍵盤楽器でバスや和音を演奏する。 | | |
| 第2次 | ねらい：「カノン」の循環コードに合う旋律 My メロディー 創作を行う。 | | |
| 3 | 「カノン」の循環コードに合う 2分音符メロディー | <ul style="list-style-type: none"> ・旋律を創作するルールに関心をもち、創作に取り組んでいる。 ・旋律を創作するルールに沿って、旋律創作をしている。 ・友人の作品のよさを感じ取り、それを生かして旋律創作を工夫して行う。 | 観察 プリント |
| 4 | ー 創作のルールを知り、創作する。 | | |
| 5 | 「カノン」の循環コードに合う 4分音符メロディー | | |
| 6 | ー 創作のルールを知り、創作する。 友人の作品のよさに気付き、それを生かし、工夫して旋律創作を行う。 「カノン」の循環コードに合う 8分音符メロディー | | |
| | ー 創作のルールを知る。(8分音符メロディー)はチャレンジ課題とし、授業で創作の時間はとらない。) | | |
| | | | |

| 第3次 ねらい：創作した旋律を重ねて Our カノン を創り、アンサンブルをする。 | | | |
|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 7 8 | 3人のグループをつくり、創作した旋律を組み合わせて3声の楽曲 Our カノン を創る。(メンバー全員の旋律を使うことをルールとする。このためグループは友人関係を基本とするが、より豊かな響きの作品になるように指導者が決めることもある。) Our カノン をリコーダーとキーボードを用いて発表し、相互評価を行う。 (バスはグループの異なる生徒が互いに担当し合う。) | ・互いに創作した旋律を聴き合いながら、Our カノン を創る。 ・ブレス、フレーズ、リコーダーの音色等に注意して演奏する。 ・他のグループの楽曲のよさ、演奏のよさを感じ取って聴いている。 | 観察 演奏聴取 プリント |

(8) 本時の展開(第2次 5、6時間目)

ア 本時のねらい

友人の作品のよさに気付き、それを生かし工夫して 4分音符メロディー を創作する。(「友人の作品のよさ」とは旋律創作のルールを守った上で 盛り上がり の設定 模続進行 効果的な跳躍の工夫をしていること)

グループ内で4分音符の My メロディー を発表し合い、相互評価を行う。

8分音符メロディー 創作のルールを知る。

イ 展開案

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| < 導入 > 前時の復習をし、本時の活動について理解する。 「カノン」の循環コードを用いているポップスの曲をその部分だけ取り出して鑑賞し、各旋律のよさに気付く。 | 「カノン」の循環コードがわかりやすい曲を選択する。 鑑賞曲 「さくら(森山直太郎)」 よさは効果的な跳躍 鑑賞曲 「TOMORROW(岡本真夜)」 よさは模続進行 | |
| < 展開 > 指導者の選んだ友人の作品のよさを見付ける。 | よさを見付けやすくするために楽譜を配る。 作曲者本人に演奏してもらおう。困難な場合は指導者が一緒に演奏する。 | |
| 友人の作品のよさを生かして、工夫して4分音符メロディー を創作する。 | 前時提出された作品にアドバイスを書いて返却する。 友人の作品のよさを感じ取り、それを生かし、音楽としてまとまりのある旋律になるように工夫して創作する。 「 <u>努力を要すると判断される</u> 」生徒への指導の手だて 構成音の階名を書き出させ、なるべく近くへ動かして旋律創作を行うよう助言する。 | |
| < 展開 > | | |

| | |
|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>グループに分かれ、4分音符の My メロディー を発表し合い、相互評価をする。</p> | <p>相互評価のための評価票を用意する。</p> <p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4分音符メロディー 創作の最低限のルールを守っているか。(特にルールの) ・ 盛り上げりの設定、模続進行、効果的な跳躍などの工夫が見られるか。 <p>友人の旋律のよさを感じ取って聴くことができる。</p> |
| <p><展開 ></p> <p>8分音符メロディー 創作のルールを知る。</p> <p>「非和声音」について知る。</p> | <p>指導者が「カノン」の原曲 11、12 小節の旋律を階名で歌い、生徒に楽譜の構成音を で囲ませ、 印以外の音が非和声音であることを説明する。それらの音が順次進行によって到着していることに気付かせ、それを今回の創作のルールとすることを説明する。</p> <p>非和声音を使わないで創った 8分音符メロディー の改善の必要な例を示し、原曲と比較する。旋律をよりなめらかにし、表現力を広げる非和声音の効果に気付かせる。</p> |

(9) 考察

本題材ではリコーダー等を用いて自分で音を出しながら My メロディー を創作し、Our カノン の旋律の組み合わせを考えていった。コンピューターを活用した学習もあるが、自分の出す音を一つずつ聴きながら旋律創作を進めること、自分たちで演奏しながら音の重なり的美しさを感じることはコンピューターでは体験できないことである。本題材ではこれらの体験を大切にしたいと考えた。

音楽としてまとまりのある旋律を創作するために、かなり細かなルールを設けた。しかし「作曲の授業を受けたのは初めてで難しかったが、自分の曲ができるのはおもしろい」(以下「」内は生徒の感想)とあるように、ルールに沿っていけば、つたなくとも音楽としてまとまりのある My メロディー ができあがり、達成感が得られた。特に男子生徒が慎重に、かつ熱心に旋律創作をすすめていた姿は印象的であった。また「自分の曲を演奏するのは楽しい」と演奏にも意欲的に取り組めた。

一方、「リズムの制約がありすぎる」と不満をもった生徒もいた。このような生徒に対しては基礎を確認した上で、もう少し制約の少ない旋律創作をさせるべきであった。また、楽譜上では美しい作品ができているにもかかわらず、演奏していく際、リコーダーの演奏技術が伴わず、自分の創った My メロディー のよさを十分に表現することができなかつたり、Our カノン を互いに聴き合いながら演奏するところまでいかなかったりするグループもあった。旋律創作と並行してリコーダーの基礎練習を十分に行う必要があった。

質の高い My メロディー を吟味して組み合わせせて Our カノン を創り、練習を重ねて発表したグループの演奏に、全員が集中して聴き入っていた。音楽の醍醐味であるハーモニーの心地よさや互いに聴き合いながら一つの音楽を創っていく楽しみ・喜びを感じ取っていた。この体験を本校の合唱祭の演奏に生かしていきたいと考えている。

事例4 音楽〔表現(器楽)と鑑賞の関連〕

(1) 題材名「パッヘルベル「カノン」について学ぶ」

(2) 題材の目標

- ア 楽曲が表現している情景を想像し、表現の豊かさを味わう。
- イ 旋律の美しさや音の重なりを味わい、イメージを膨らませて表現を工夫する。

(3) 題材設定の理由

誰もが知っているクラシックの名曲を取り上げ、その作品の作曲者、音楽家の人生や楽曲の歴史的な背景などを学び、様々なジャンルでのアレンジされた「パッヘルベルのカノン」を聴きながら、その音楽について理解を深める。

楽曲の鑑賞し、リコーダー・アンサンブルによって「カノン」演奏する学習活動を、ワークシートを活用して振り返り、生徒自らが、主体的に学習し取り組むことによって、学ぶことの理解が深まり、音楽の美しさ、演奏する楽しさや喜びを、学ぶ力へつながると考えた。

(4) 教材について

パッヘルベル作曲「3つのバイオリンと通奏低音のためのカノンとジグ(Kanon und Gigue für 3 Violine mit Generalbass)」は、一般的には、「カノンとジグ 二長調」、「パッヘルベルのカノン」(以下、カノン)などと呼ばれている。誰もが一度は聴いたことのある名旋律である。

(5) 学習内容

- ア 「カノン」の旋律を使用したポピュラーソングを鑑賞し、身近にある音楽から「カノン」への興味・関心へ結ぶ。
- イ パッヘルベルが、音楽史の中でどの時代に活動した作曲家なのか、他の作曲家の作品も交えて、その時代の音楽形式、作風や歴史的背景などを学ぶ。
- ウ 作曲技法である「カノン」や「フーガ」を使った作品を味わい、表現の工夫に生かす。

(6) 題材の評価規準

- ア 楽曲の旋律や演奏している楽器などの表現方法に関心を持ち、意欲的に自らの器楽表現へ生かそうとしている。(音楽への関心・意欲・態度)
- イ 楽曲のもっているよさや曲想を感じ取って表現の工夫をしている。(芸術的な感受や表現の工夫)
- ウ 楽曲に対する自己のイメージや感情を生かして楽曲にふさわしい表現をしている。(創造的な表現の技能)
- エ 時代様式や音楽形式を理解して、音楽を特徴付けている諸要素が曲の気分と結びついていることを感じ取って、楽曲全体を聴いている。(鑑賞の能力)

(7) 指導計画(全8時間)

| 時 | 主な学習活動 | 学習活動における具体の評価規準 | 評価方法 |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 1 2 | <p>【鑑賞】ソプラノ、アルトリコーダーでのアンサンブルで演奏する「カノン」についてを学ぶ。今では幅広いジャンルの音楽に使われ、必ず一度は聴いたことのあるヨハン・パッヘルベルの「カノン」について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の作曲者であるパッヘルベルの楽曲、歴史的な背景などを学び、CD等を聴きながら、その音楽について理解を深める。また、身近なポピュラー音楽において「カノン」の旋律がどのように存在しているのかを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「カノン」に興味をもち、自分の感想を述べている。 ・ 楽曲の生まれた時代の背景や、その時代の音楽形式を理解して、楽曲全体を聴き取っている。 | <p>観察 ワークシート</p> |
| 3 4 | <p>【器楽】リコーダーの取り扱い方と「カノン」のグループ編成分け(S・S・A・A)し、教室全体での共通のテンポを決め、それぞれのリコーダーに与えられる音(パート譜)を確実な指使いで演奏できるようにするために、それぞれのパート(S1・S2・A1・A2)に分かれて、パートリーダーを中心に、パート練習を行い、全体で合わせる。計画的に練習ができたか、自分やパートごとでの反省と次回へ向けての取組みを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想を理解し、自分のイメージを膨らませて器楽表現することに意欲的である。 ・ 楽曲構成の豊かさや表現の多様さを感じ取って表現の工夫をしている。 ・ 音程やリズムを正しく器楽表現をしている。 | <p>観察 ワークシート</p> |
| 5 6 | <p>【器楽】前回までの復習をしながら、再度「カノン」全部を聴いて、自分たちのカノンの演奏の再構築を考える。その後、全体で合わせ、それぞれのチームに分かれて練習をする。</p> <p>チームごとのテンポ、表現方法を考えながらアンサンブルをつくり出す。</p> <p>計画的に練習ができたか、自分、パートごとでの反省と次回へ向けての取組みを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲のイメージを通して楽曲全体の味わいや豊かさ、表現の多様さに関心をもっている。 ・ 曲の表すメッセージをくみとって表現を工夫している。 ・ イメージを音楽の諸要素と関連させて表現する技能を身に付けている。 | <p>観察 ワークシート</p> |
| 7 8 | <p>【鑑賞・器楽】</p> <p>グループごとに演奏を発表する。</p> <p>それぞれのチームの演奏を聴き、演奏したグループへコメントを書く。</p> <p>自分達たちの演奏を振り返る。</p> <p>最後に再度カノンを全体を通して聴く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の表現と友だちの表現との相違等を客観的に聴き分けている。 ・ 楽曲のよさや美しさを全体を通して味わっている。 | <p>観察 ワークシート</p> |

(8) 本時の展開(第1時・第2時【鑑賞】)

ア 本時のねらい

楽曲に関心をもち、主体的に鑑賞活動や表現活動に取り組みさせるために、パッヘルベルの「カノン」を聴いて、表現や演奏の工夫、それぞれのイメージと雰囲気味わいながら、特徴を感じ取らせ、リコーダーアンサンブルでの表現の工夫をさせることへつなげられるようにする。

イ 展開

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| <p><導入> 山下達郎「クリスマス・イヴ」を聴き、間奏に使用されているカノン旋律を聴き取る。 《本時の課題》 パッヘルベルの「カノン」を聴いて、表現や演奏の工夫をしているところを感じ取る。 本時の学習のねらいを把握する。</p> | <p>季節感をもち、身近なところで感じられる音楽の中に隠れた「カノン」の旋律を提示して、ワークシートを利用しながら、これから学ぶことへの興味・関心を引き出す。</p> | |
| <p><展開> J.S.バッハの「小フーガ」を聴き、音楽史の上でこの音楽はいつの時代のものか、楽曲の歴史背景を認識する。バロック時代の音楽形式「フーガ」や「カノン」という音楽技法を楽譜や説明を聞きながらポイントをつかむ。 作曲家ヨハン・パッヘルベルについて知る。 楽譜を見ながらヨハン・パッヘルベルの「3つのバイオリンと通奏低音のためのカノンとジグ」のカノン(原曲)を聴き、「平行カノン」や「通奏低音」のしくみを理解する。 「カノン」のコード進行をそのまま利用したポピュラーソングの楽譜を見る。 「カノン」の旋律を使ったポピュラーソング(白鳥英美子: This Song for You)を聴く。 様々な楽器やアンサンブルでの「カノン」を聴く。 ・ ピアノ、ベース、ドラムのトリオ(Jazz) ・ 箏と尺八 ・ アカペラヴォーカルアンサンブル 自分たちが演奏する楽譜のリコーダーアンサンブルの「カノン」を聴く。 再度「カノン」の原曲を聴く。</p> | <p>拡大した「小フーガ」の冒頭部の楽譜を提示し、フーガの技法を簡単に説明する。 バロック時代の教会音楽やパイプオルガンの特徴を説明する 「平行カノン」と「2小節の通奏低音」との楽譜を提示し、構成の説明をする。 C - G - Am - Em - F - C - F - Gのコード進行の提示し、身近にある楽曲に「隠れた秘密」があることを説明する。例として「TOMORROW」を挙げて説明する。 アレンジ工夫された様々なカノンを聴いて演奏されている楽器の特徴などを説明しながら、演奏表現の工夫を感じ取らせて、自分達の演奏への手だてになるように、助言を与えていく。(発言させる。問答) 時代様式や音楽形式を理解して楽曲全体を聴き取ることができ、楽曲の旋律や演奏している楽器などの表現方法に関心をもちながら、意欲的に自らの器楽表現へ生かしていくことができる。 【鑑賞の能力】【関心・意欲・態度】 「おおむね満足」からさらに質的な高まりが見られる生徒の姿 ・ 興味、関心をもって鑑賞態度が良好であり、自分自身の感性を表現できる。 「おおむね満足」と評価した生徒の学習状況 指導者の発言や生徒の発言などに反応し、自らの言葉で意見の発言やワークシートに意見を書くことができる。 「おおむね満足」に到達していない生徒への手だて ・ ワークシートでのコメント欄を利用して助言を与える。 ・ 問いかけ、発言をさせる。</p> | |
| <p><まとめ> カノンについて学んだことの感想をワークシートにまとめる。</p> | <p>自分達が「カノン」を演奏するということを自覚させる。 ただ聴くだけではなく、感じ取ったものを言葉で表現させる。</p> | |

(9) 評価事例(ワークシートの活用)

楽曲を鑑賞する中で、ただ聴いているだけではなく、工夫したワークシートを使用しながら、生徒たちの興味・関心を引き出せるように「身近にある旋律」に着目し、ポピュラーソングを導入として、生徒と指導者のお互いが様々な意見を交換し合えるようにワークシートの作成を考えた。

○ワークシートの設問

『パッヘルベルのカノン』を学ぶ

- ① この曲、この旋律って、聴いたことある？
- ② この旋律は、自分の身の回りにあるのかな？あるとしたらどんなところ？
- ③ J.S.Bach「フーガ ト短調」を聴いてみます。
 - ・バッハの活躍したこの時代は、音楽史の上で、何時代と呼ばれるのかな？
 - ・音楽史の上では、どんな時代だったのでしょうか？
- ④ 「フーガ」や「カノン」とは？
- ⑤ パッヘルベルのカノン！？正確な曲名は？
 - ・通奏低音とは何だろう？
- ⑥ 「カノン」を使ったポピュラーソングを聴いてみよう！
- ⑦ いろいろな楽器や声のアンサンブルでの「カノン」を聴いてみよう！
- ⑧ さあ、いよいよみんなの番ですね！どんな演奏にしたいのかな？

想像しながらリコーダーアンサンブルでの「カノン」を聴いてみよう。
- ⑨ ここまで「カノン」について学んでみて、自分の「カノン意識」は、どんなもの？

パッヘルベルの《カノン》を学ぶ
(ワークシート)

リコーダーアンサンブルで、パッヘルベルの《カノン》演奏する前に、よく知っているこの名曲を聴いて、自分の身の回りから聴いて学んで、自分やグループの演奏に役立てよう！

1年 組 番 氏名 _____

| | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| ① この曲、この旋律って、聴いたことあるよ！? | |
| さて、この曲は、誰の曲？ | 作曲者: ヴァルデマール・パッヘルベル 1733-1800 |
| 山下 遼太郎 | |
| どんな時(季節)に聴いてくる？ | 冬 (クリスマス) |
| 冬 (クリスマス) | 向かいの窓から聞こえてくる。 |
| どこで聴いたことがあるかな？ | 色んなところで聞いたことがある。(CM、TV、ラジオ、音楽教室、カラオケ) |
| ② この旋律は、自分の身の回りにあるのかな？あるとしたらどんなところ？ | |
| | ・ 電車の音 ・ 電車の音 ・ 電車の音 |
| ③ J.S.Bach「フーガ ト短調」を聴いてみます。 | |
| バッハの活躍したこの時代は、音楽史の上で、何時代と呼ばれるのかな？ | |
| バロック時代 | 17世紀後半から18世紀前半 |
| フーガ (Fuga) / カノン (Canon) | 通奏低音の上に追加した(同じ旋律を) |
| 音楽史の上では、どんな時代だったのでしょうか？ | |
| J.S. Bach (ドイツ) | 1685-1750 |
| ドイツ | 北ドイツのアンハルト公国(カノーナ) |
| カノン: パッヘルベルは、1741年作曲... | バロック時代の音楽家... |
| パッヘルベル | Bach (ドイツ) |
| 「カノン」 | ベートーベン |
| 「カノン」 | |
| 「カノン」 | |
| 「カノン」 | |

観点4の「鑑賞の能力」は、楽曲に対する解釈や味わいなどが生徒の外側に表れるように評価していくことが重要である。

また、観点1「音楽への関心・意欲・態度」観点2「芸術的な感受や表現の工夫」と深く結びつき、かかわり合っているとらえていくことが大切である。

資料



左の資料は、「通奏低音」の説明時に使用したものと、カノンの通奏低音を利用したポピュラーソング「TOMORROW」の冒頭部分のメロディーを提示したものである。

カノンの2小節の通奏低音、原調のD durを生徒が実際にリコーダーアンサンブルではC durでの演奏するため、理解しやすいようにC durへ移調した譜を提示し、解説した。

その通奏低音を使っている身近な曲の中にもカノンの秘密が隠されていることを説明した。

その他にも、ポピュラー音楽の中にこのカノンのコード進行があることなどを説明した。



(9) 考察

「カノン」についての学習を、鑑賞と表現の関連を図りながら行った。私たちの普段の生活の中には、いたるところで、この「カノン」の旋律が聴こえてくる。それを活用して、研究の視点の一つである教材の工夫として、生徒が興味・関心がわくような導入を考えた。生徒にとって身近な音楽の中から優れたもの(例:この授業では、導入として山下達郎「クリスマス・イブ」、展開時には岡本真夜「TOMORROW」)を使って、カノンの特徴など知られざる秘密を生徒たちと楽しめるように自己作成の「楽譜」と「ワークシート」を資料としながら授業展開を図った。クラシック音楽と聞くとあまり興味を示さない生徒たちもいるが、今回の導入により、生徒の意欲をより引き出すことができた。また、自分たちの生活の面で「カノン」の旋律がどこで使われているかを探してみようとの問いには、たくさんの答えが返ってきた。音楽史的にバロック時代に生まれたこの楽曲について、J.S.バッハと関連させながら、楽曲の歴史的背景や誕生秘話などを解説した。生徒自ら教科書の歴史年表を開くなど、新たな一面も垣間見ることができた。「フーガ」「カノン」といった音楽技法の解説、「カノン」のコード進行を解説した上で、ポピュラーソングの様々なところでこの「隠れカノン」が使用されていることに生徒たちの反応も良かった。鑑賞活動では、全体をじっくり味わうことができ、表現活動であるリコーダーアンサンブルでは、さまざまな表現を工夫する生徒の姿が見られた。

研究の成果と課題

本研究では「個に応じた学習のねらいを明確にし、興味・関心を高めていくことができる指導法を工夫することによって、主体的な音楽活動に取り組む生徒が育つであろう。」という仮説をたて、生徒の音楽へのかかわり方を受動から主体的に変えていくために必要と思われる指導者側からの「しかけ」「ゆさぶり」とその生徒の変容をどのように「みとり」生徒へも変容を実感させるかを、実践事例により明らかにしていった。研究の成果と課題は以下のとおりである。

1 研究の成果

(1) 個に応じた学習の方法の明確化

授業評価、自己評価、相互評価を用いた。記録シート、振り返りシート（生徒、指導者相互）個人カルテ（指導者）等の活用により自己を客観的に生徒に見つめさせるとともに、指導者の側も、次の時間の目標や課題を予告したり一人一人に与えたりすることが的確になり、個に応じた学習の方法をより明確にすることができた。

(2) 興味・関心の質を高める指導法の工夫

興味・関心については、ほとんどの生徒が既にもっていると考えた。しかし今年度教育研究員が目指したのは、興味・関心を持続させること、このことを通して興味・関心の質を高めるための学習活動の工夫である。具体的には生徒の意欲を引き出すための、授業の改善、及び「おおむね満足」と評価できる規準、「おおむね満足」達していない生徒への指導の手だてを作成、指導評価の繰り返しを持続することにより、生徒一人一人が目標をもって授業に取り組むことができた。

(3) 音楽活動における主体性を高める指導法

主体的な音楽活動を 意欲がある 自ら演奏している充実感、達成感、自信がある
演奏、技能に向上心があり成果が見られる 自己評価、相互評価 次へのへと
考えた。そしてこれらの営みの中から生涯学習につながる音楽を生み出していけると考え、教材、教具、場の設定の工夫から授業改善を心がけた。

2 研究の課題

本研究において、各学校が生徒に主体的に取り組むことを通して、いかに生涯学習につながる基礎的・基本的な内容を定着させるかを考えてきた。基礎・基本を身に付けさせることが芸術科の根本と考え、生徒が[生きる力][確かな学力]を身に付ける授業を目指して、実践授業を行った。今後の課題としては、以下の点である。

(1) 個に応じた学習の方法の明確化に関しては、個々のシート、個人カルテ等の活用が重要であることが分かったので、指導場面に応じての使い分け内容の一層の充実を図りたい。

(2) 興味・関心を高めることを目指した指導法については、評価規準の信頼性が重要な点であると考え。4観点を基に、評価の客観性を高めるためにも、観察、個々のシート、レポートなど状況に応じた的確な評価規準の工夫、改善が必要である。

(3) 指導者が授業で求めるのは、主体的に活動する生徒の育成である。そのためには、一人一人の生徒の個性を引き出すための教材、教具、場の設定などであると考え。この点に関しては音楽科の指導者が各校一人である高等学校音楽科の実態を踏まえ、各校でより連携を取り合って、今後も授業の改善に取り組んで行くことが必要である。

平成16年度 教育研究員名簿（ 芸術（音楽） ）

| 地区 | 学 校 名 | 氏 名 |
|-----|-------------|-------|
| 1地区 | 都立つばさ総合高等学校 | 古澤 成樹 |
| 2地区 | 都立世田谷泉高等学校 | 米原 希和 |
| 7地区 | 都立南多摩高等学校 | 横井 明子 |
| 9地区 | 都立清瀬東高等学校 | 伊藤 昌代 |

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 竹内 浩子
指導主事 丸山 智子

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社